

基金にご支援いただいた寄附金で、被災した「環日本海域環境研究センター 臨海実験施設（能登町小木地区）」の一部を改修させていただきました。

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、負傷された方、被災された方、そのご家族及び関係の方々に心よりお見舞いを申し上げます。

当臨海実験施設も大きな被害を受けました。護岸は崩れ、道路も崩壊し、宿泊棟の後ろの崖が崩れました。幸いなことに、施設自体への被害は少なく、昨年納品された新造船（あおさぎ）は無事でした。人的な被害もありませんでした。しかし、臨海実験施設周辺の被災状況から、当面の間、施設での教育研究活動はできないと判断し、教員と学生は、金沢市の角間キャンパスにて教育研究活動を続けています。また、例年実施している公開臨海実習等は、石川県及び能登町のご協力をいただき、別の施設をお借りすることで今年度も実施しております。

一方、当施設の技術職員と事務職員は、施設の維持管理のため、能登町に滞在しています。今回、「金沢大学被災学生・施設支援等基金」でご支援いただいた寄附金で、現地に滞在する職員の事務所と職員用宿舎を改修させていただきました。3部屋の内、1部屋を事務所にして、残りの2部屋に2段ベッドを3組入れて、最大6名宿泊できるようにしました。いつも当施設の活動を応援してくださっている皆様、特に、今回ご寄附をしていただいた方に、心からお礼申し上げます。一日も早く、復旧できるよう教職員一同、まい進して参ります。今後とも、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



小木出張所（職員用宿舎）の寝室